

地域体験を学びに変える

— “どうしようもない” から気づく力をつける—

■講師



今城 逸雄

(高知大学 リエゾンオフィス「コラボレーション・サポート・パーク」室長、高知大学総合教育センター特任講師)

高知商工会議所で 11 年間商店街活性化を担当。大学生による街づくりグループ「エスコーターズ」を組織するなど、全国から注目される事業を企画実施。その間、高知大学大学院人文社会科学研究科で学び 2003 年修了。2010 年から高知大学で地域教育フィールドの開発、学生プロジェクト支援、地域体験バスツアー「えんむすび隊」、サービスラーニング授業などを行う。着ぐるみを使ったコミュニケーションや社会とのつながりを考える授業はマスコミで取り上げられ話題を集めている。

■プログラム概要

学外での学習体験は、学内での座学とは違った刺激を学生に与えます。しかしコミュニケーションに自信が持てなかったり、社会の中で行動することが苦手で、体験を十分に生かせない学生がいます。そこで学生が他者との関係から気づき、自らの行動を考え、社会の中で達成感を感じるためのツールとして着ぐるみに着目しました。着ぐるみを使った授業での効果や、コラボレーション・サポート・パークでの地域活動の事例を中心にお話したいと思います。

ぜひ着ぐるみ体験をしていただきたいのですが、残暑厳しい頃なので着ぐるみを着てもらうのはさすがに酷だと思しますので、それに代わる体験を考えています。他者との関係からの気づきや、バリアフリーなどの外の世界(地域)にも関心が広がることを期待しています。

5 人程度に分かれてのグループワークとなります。グループでの実行→振り返り→改善→再実行→再振り返りのサイクルを経験していただき、気づきを与える授業開発や職場の環境改善のご参考になれば幸いです。

■主な受講対象

教職員。特にサービスラーニングを始めたいと思っている方、学生の積極性を引き出したいと考えている方、職場改善のヒントを探している方には、新しい視点から考える機会になると思います。(ちょっと勇気のある方、人見知りの方も歓迎)

■本プログラムの到達目標

1. 地域とつながる学生プログラムの開発や運営のヒントを得ることができる
2. コミュニケーションについて、改めて考えることができる
3. 社会や職場の改善を考えるきっかけをつかむことができる

■日時・会場・受講定員

日 時 : 平成26年8月29日(金) 10:00~12:00

会 場 : 高知大学 朝倉キャンパス 共通教育3号館 311番教室

定 員 : 30名